

# 産業情報いわて

VOL. 123

月刊 2012年10月号

【支援企業紹介】



## 株式会社 小鯖船舶工業

### オンリーワンの (P2)

### 船を造り水産業の復興に貢献



いわて特産品コンクール  
受賞者発表 (P4)

被災企業  
コラボレーション商談会 (P6)

いわて食の大商談会 (P7)

新任員紹介 (P8)

ビジネスマッチ東北2012 (P8)

チャレンジショップ出店募集 (P8)



- ①今年5月に竣工した新浜町の造船工場。3000㎡の敷地に立つ工場は鉄骨造り2階建て、延べ床面積1300㎡を超える。
- ②工作機械は完全オートメーションではない。造船は人の技術の結集である。
- ③船体はすべて手づくり。船主や基部の曲線は、炎と水で厚い金属板をたわませて徐々に曲げていく「焼鉄(ぎょうてつ)」という技が使われる。経験と勘が求められる高度な技だ。
- ④新工場ではパーツ製作の工程を見直し、1ヶ月近い工期の短縮を実現できた。
- ⑤設計にはCADが使用されている。
- ⑥復興第1号船、泉澤水産の第58清水丸。
- ⑦甲子町には、本社と釜石工場をおく。



壊滅的な被害を受けた大槌町吉里吉里の造船工場。建造中の船も流された。

発信!!  
いわての  
力こぶ

# オンリーワンの船を造り水産業の復興に貢献

東日本大震災では三陸沿岸の造船所のほとんどが壊滅的被害を受け、流出・損壊した漁船は2万隻を超える。釜石市に本社をおく株式会社小鯖船舶工業も大槌町の造船工場全てを流されるという悲劇に見舞われたが、不屈の精神で今年5月には新工場が完成した。地元水産業の復興に向け、新たな船出をきった同社の小鯖専務に話を聞いた。

## アルミ船建造の技術を磨きあげ 全国各地からの注文に対応

世界有数の好漁場を有する三陸沿岸。基幹産業の水産業を支えるインフラ産業のひとつが、漁船の建造や修繕を担う造船業だ。ここ岩手にも多くの造船会社が立地するが、釜石市の株式会社小鯖船舶工業はアルミ軽合金船の建造に注力し、その高い技術力で全国各地からの注文に応えている。

「アルミ船は、量産型のFRP(繊維強化プラスチック)と違い単品製作だから、船主の細かな希望にも応えられる。オンリーワンの船づくりが当社の強みです」。

明快に話すのは、代表取締役専務の小鯖利弘さん。同社の創業は昭和39年と造

船関係では比較的新しいが、アルミ漁船建造の実績は30年近く。知床半島沖での冬期の漁に対応した砕氷可能な船を造るため、より軽量で耐久性に優れたアルミ軽合金の知識や技術について専門家の指導を受け、溶接や組立技術を磨いてきた。

これまでの実績は漁船のみならず、官公庁船はじめ世界最大級のアルミ船・テクノスーパーライナー建造に関わったことも。現在は19tクラスを主流に、20~100tクラスの漁船を建造する。取材時、新浜町の工場では99tの大型キンメ延縄漁船の組立作業がまさに佳境。この後は、来夏までに2隻の30tサンマ棒受網船の建造が控えているという。培ってきた金属加工の技術で、多様な用途の造船に取り組んでいるのだ。

## 震災から1年後には新工場完成 復興の先を見つめ、日々前進

そんな同社も東日本大震災では大きな被害を受けた。船越湾の南、大槌町吉里吉里地区にあった造船工場は21mを超す大津波に襲われ、工場設備はもちろん3月20日に進水式を控えていた北海道根室のサケマス船までも流されてしまったのである。

釜石市役所で震災に遭遇した小鯖専務は、その足で支援センターへかけつけて物資やボランティアの調整に没頭。従業員からの報告で工場敷地の地盤沈下は把握していたものの、1ヶ月近く支援活動に関わった。「当社の問題は『どこでやるか』だけ。選択肢なんてないから、悩むこともなかった」。その言葉通り、あとは再起に向けて奔走。釜石市への移転を目指しての用地確保、さらに造船業への自治体や日本財団からの支援も実現させる。なにより、建

造途中で流されたサケマス船がほとんど無傷のまま三陸沖で発見されたのは、奇跡というべき幸運だったと小鯖専務。船は船尾にあった多少のダメージを直し、夏からのサンマ漁に間に合った。「まさに我が社にとっての希望の光になった」と振り返る。

いっほう新しい工場用地は昨秋に決定し、12月から工事が着工。当センターも溶接機械などの設備貸与に加え、設備購入費に関する支援を行った。そして今年5月、待望の竣工式が実現したのである。復興第1号となったのは、同じ釜石市に事業所をおく泉澤水産の定置網漁船2隻だった。

来年、同社は創業50周年を迎える。未曾有の震災を越えての50年も、小鯖専務は「通過点でしかない」ときっぱり。そして「その日を自分はどういう風に生きるかの方が大事」と話す。一日として同じ日はないからこそ、立ち止まってはられない。復興のその先を、もう小鯖専務は描いている。

我が社の力こぶはコレ!

人との出会いでもらう  
“勇気”が原動力です

会社経営やさまざまな活動を通じ人と出会い、改めて自分は生かされているのだと実感。被災したことで、その思いはより強くなりました。悩んでいては商売もうまくいかないから前に進むしかない。そんな勇気も、出会いからいただいています。



代表取締役専務  
小鯖利弘

会社名	株式会社小鯖船舶工業
所在地	釜石市甲子町第9地割248-3
電話	0193-27-3001
造船工場	釜石市新浜町2-281-27
電話	0193-31-1333
代表者	小鯖利弘
創業	昭和39年7月
従業員	30名(平成24年8月31日現在)
業種	鋼船、アルミニウム船、木船およびFRP船の建造ならびに修理。

【支援企業紹介】釜石市  
株式会社小鯖船舶工業





食品部門(9/25)展示の様子

審査員のみなさん

# 速報! いわて特産品コンクール 受賞者決定!

【主催】いわての物産展等実行委員会・岩手県  
【後援】岩手県市長会

9月25日と26日、岩手県工業技術センターにて「いわて特産品コンクール」が開催されました。

岩手県内で製造される優れた食品、工芸品等を審査し、県産品の知名度向上につなげようというもので、昭和47年に「特産品コンクール」第1回が開催されてから、今年で40回目となる、歴史あるコンクールです。受賞商品は、毎回大きな反響があり、各小売店で「定番商品」として常時販売されるようになるなどの効果が出ています。

コンクールは「食品部門」「工芸品・生活用品部門」に分かれており、出品数は、食品部門58社114点、工芸品・生活用品部門22社39点となりました。

審査員として、「(株)高島屋」宣伝部・中里治氏、「(有)良品工房」白田典子氏、「岩手県産(株)」営業部・長澤由美子氏、「(株)川徳」食品部・木川田宣明氏(食品部門の審査)、リビング用品・呉服部・吉田寿志氏(工芸品・生活用品部門の審査)、「(地独)岩手県工業技術センター」企画支援部・有賀康弘氏、食品醸造技

術部・小浜恵子氏の以上7名が、厳正に審査にあたりました。

「特産品コンクール」入賞者には賞状、記念の楯のほか、特典として「受賞商品PR広告(岩手日報)」の掲載や、「商品貼付用シール」が贈られます。

また、出品者全員が「出品カタログ」へ掲載されます。このカタログは、岩手県アンテナショップ(東京銀座「いわて銀河プラザ」、大阪「jengo」、福岡「みちのく夢プラザ」)に配置されるほか、各種物産展でも配布されます。



マスコミ各社も取材していました



工芸品・生活用品部門(9/26)の審査会 審査中の様子



工芸品・生活用品部門の出品品



食品部門の審査

## 平成24年度いわて特産品コンクール受賞者一覧

### 【食品部門】



のだ塩さばめしの素  
(株)長根商店(洋野町)



お野菜をたっぷり食べるディップソース  
(株)浅沼醤油店(盛岡市)



輪菓子  
(株)砂田屋(盛岡市)

Liqueur Sweets アロニア  
赤武酒造(株)(盛岡市)

### 【工芸品・生活用品部門】



知事賞  
パーテーション  
(有)染屋たきうら(花巻市)



南部の灯火  
(株)幸呼来Japan(盛岡市)



輪花コーヒーC/S  
(有)杏工房(盛岡市)

螺鈿ジュエリーペンダントNo.3  
螺鈿澤井工房(盛岡市)

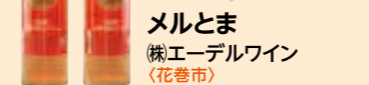
### いわての物産展等実行委員会会長賞



パスタにひとめぼれ  
岩手ふるさと農業協同組合(奥州市)

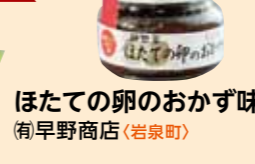


じばんぐ平泉  
きんいろばん屋(平泉町)



メルとま  
(株)エーデルワイン(花巻市)

### いわての物産展等実行委員会会長賞



ほたての卵のおかず味噌  
(有)早野商店(岩泉町)



いわなの燻製茶づけ  
(有)田屋商事(岩泉町)



スモークさんま  
(株)浦嶋商店(大船渡市)

### いわての物産展等実行委員会会長賞



ワゴン1  
山口家具(岩泉町)

亀甲織ベスト  
しずくしい麻の会  
(栗石町)



座卓小椅子  
おりつめ木工  
(栗石町)

繭鈴MAYURIN  
工房夢繭・花(盛岡市)

## 特産品コンクール受賞商品販売会

特産品コンクールの受賞商品を販売する予定です。お手にとってご覧いただき、お買い求めください。

●場所:盛岡市菜園「特産品プラザ らら・いわて」 ●時期:平成24年10月下旬予定(新聞で告知します)

# 被災地企業 コラボレーション商談会(岩手) 開催について

東京都と公益財団法人東京都中小企業振興公社は、先の東日本大震災で被害が甚大であった宮城県・岩手県・福島県内の中小企業を支援するため、各県の中小企業支援機関等と連携し、「被災地企業コラボレーション商談会」を被災に見舞われた各県で開催しています。第1回目は去る9月5日(水)宮城県にて開催し、発注企業72社、受注企業155社が参加し、589件の商談を行いました。

このたび第2弾を岩手県盛岡市で開催いたします。つきましては、本商談会に参加を希望される受注企業を下記の通り募集いたします。多くのご応募をお待ちしております。



## 被災地企業コラボレーション商談会(岩手)の概要

**開催期間** 平成24年12月13日(木) 13:00~19:00

**会場** ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING  
(岩手県盛岡市盛岡駅前北通2-27)

**参加企業** 受注企業 150~200社 / 都内の発注企業等 50社 (予定)

**交流会** 商談会終了後、立食形式での交流会を開催します。【参加無料】

参加料  
無料

## 受注企業の募集

**募集企業数** 岩手県内企業100社程度、宮城県・福島県内企業各50社程度  
( casting, 製缶, 機械加工, 板金, プレス, 樹脂, ソフトウェア, 食品加工 )

**募集期間** 平成24年10月10日(水)~平成24年11月9日(金) (予定)

**申込先** 公益財団法人東京都中小企業振興公社

**申込方法** 下記ホームページにて「発注側参加企業情報」(発注案件)をご覧のうえ、申込書をダウンロードしていただき、東京都中小企業振興公社あて電子メールにてご応募ください。

URL:<http://www.tokyo-kosha.or.jp/topics/1210/0001.html>

E-mail:[collabo@tokyo-kosha.or.jp](mailto:collabo@tokyo-kosha.or.jp)

## 当日までの流れ

### 1 お申込[11月9日(金)まで]

発注案件をWEBサイト上に公開し、受注企業を募集します。申込書提出の際には、商談希望相手を記載いただきます。

### 2 当日資料の送信[12月初旬]

各社ごとの「個別商談スケジュール」を含めた商談会資料をお送りします。

### 3 商談会当日 [12月13日(木)]

お問い合わせ先

(財)いわて産業振興センター ものづくり振興グループ 取引支援チーム 担当:藤沢・鈴木  
TEL:019-631-3822 FAX:019-631-3830 E-mail:sitauke@joho-iwate.or.jp

※参加申込みは、公益財団法人東京都中小企業振興公社となりますのでご留意願います

# いわて食の大商談会2012 が開催されました

【主催】岩手県、岩手県産(株)、(財)いわて産業振興センター、(株)岩手銀行、  
(株)東北銀行、(株)北日本銀行、(株)日本政策金融公庫盛岡支店、JA岩手県信連

8月23日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて、「いわて食の大商談会2012」が開催されました。

これは、県内の加工食品製造業者と、百貨店、スーパー、通販等の販売業者とのマッチングを行うイベントで、当日は115社の製造業者が出展し、会場を訪れたバイヤー約400名に対し、自社の商品をアピールしていました。

展示された食品は農産・畜産・水産加工品から、菓子、麺、飲料といった定番の品まで多岐にわたり、今年は日本酒、鶏卵加工品の出展もありました。

津波被害の大きかった沿岸部の企業が多く出展し、注目を集めました。いっぽう内陸部の企業も、すでに知名度のある商品から、新顔までさまざまな品物が並び、熱心に話を聞くバイヤーの姿も見られました。

会場内にはテレビカメラなどマスコミも多く詰めかけ、来場者にインタビューを行う様子も見られ、関心の高さがうかがえました。

なお、冒頭では岩手県の達増知事らがあいさつを行い、震災からの復興を目指そうと激励。参加者は決意を新たにしているようでした。

商談会は10時30分に開始し、夕方の16時まで行われました。岩手の食産業のさらなる発展が期待されるようです。



開始前にあいさつを行う達増拓也岩手県知事



# 新任職員 紹介

金融専門員 玉木 良洋

この度、金融専門員として仕事をさせていただくことになりました。今までの経験を活かし、特に被災地域や企業の復興、発展に尽力したいと思います。  
精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



# ビジネスマッチ東北 2012秋

とき 2012 **11.8** 木 10:00-17:00

ところ **夢メッセ MIYAGI** | 夢メッセみやぎ展示棟  
www.yumemesse.or.jp/access  
〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1-7

■主催／(社)東北ニュービジネス協議会、(社)東北地区信用金庫協会、  
(社)東北経済連合会、東経連ビジネスセンター、(財)みやぎ産業交流センター

「ビジネスマッチ東北2012秋」は、東北市場における  
新たなビジネスマッチングの創出を目的としたビジネス展示会です。

本イベントでは、約400の出展企業や来場者が主体となり、活発な企業間交流や  
マッチング機会の創出と提供が行われます。  
マッチングコーディネーターが企業間交流の支援も行います。

入場  
無料



新たなビジネスの  
実り。

東北の魅力あふれるビジネスシーズを、  
会場でお確かめ下さい。

<http://www.bmtohoku.jp/>

ビジネスマッチ東北2012 |

検索

貴社の新商品を盛岡地区で試験販売し、手応えを確かめてみませんか？

# チャレンジ・ショップ 出展者募集のお知らせ

【主催】(財)いわて産業振興センター

期間 平成24年7月～平成25年2月末

※詳しい開始時期についてはお問い合わせ下さい

場所 イオンモール盛岡南「いわて活菜横丁・結いの市」内  
チャレンジ・スペース

消費者ニーズや商品評価の  
把握にご活用ください！

- 事業対象者
- 中小企業支援法第2条に規定する中小企業者
  - 岩手県内において創業しようとする個人及びグループ
  - 農林水産物及びその加工品の生産者等
  - その他、(財)いわて産業振興センターが適当と認める者

使用可能面積および1事業者あたりの出店限度日数

- 5m×3.2m、最長7日間までで調整します。

●詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.joho-iwate.or.jp/challengeshop/>



お問い合わせ ●空き日程の確認：社団法人遠野ふるさと公社(チャレンジ・スペース管理者) ☎019-631-3137  
●チャレンジ・ショップ申込：(財)いわて産業振興センター産業支援グループ ☎019-631-3823